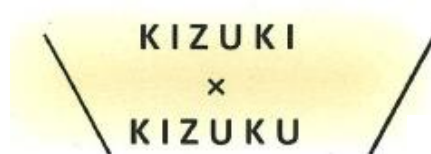


武蔵野市 中高生世代広場 (平成30年度第1クール)

－実施報告書－

平成30年9月
武蔵野市



1. 事業の全体像

(1) 実施目的

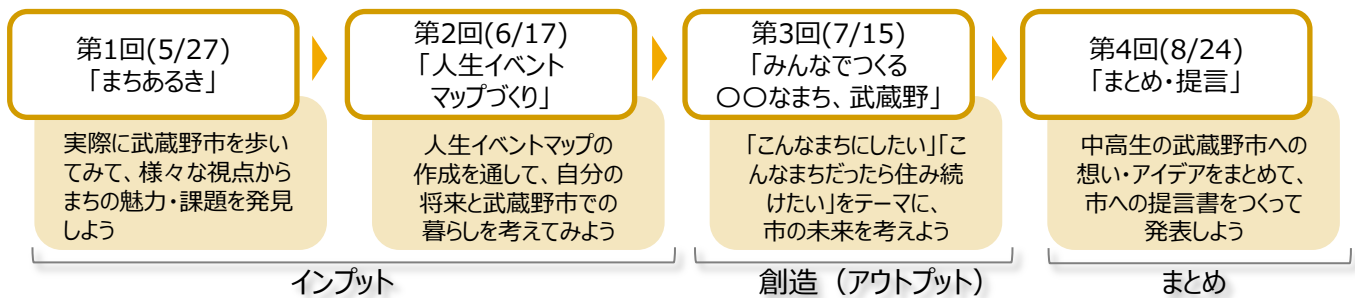
- 中高生世代広場は、市の将来を担う中高生の意見を積極的に市政運営に反映するとともに、参加する中高生が課題を通して市の新たな魅力に気が付き、より市への関心を高めてもらうことを目的にした若者世代向けのワークショップです。
- 平成30年度の第1クール（平成30年5月～8月）では、新たな長期計画策定に向けた検討の一環として、中高生の視点からみた市の魅力・課題を見つけ、今後のありたいまちの姿とその実現のための取組を検討し、策定委員会に対して提言を行うことを目的に実施しました。

＜参加した中高生&大学生アドバイザー＞



(2) プログラム概要

- 「〇〇なまちだったら住み続けたい」「武蔵野市を〇〇なまちにしたい！」をテーマに、市内在住・在学の中高生（計15人）と、サポート役として参加する大学生（計10人）が、体験型学習（フィールドワーク）と対話（ワークショップ）を通して、想いやアイデアを練り上げながら、提言書として取りまとめました。



回	日時	内容
【第1回】	5月27日（日） 13時00分～ 16時00分	■ 事業の全体像と長期計画について説明した上で、アイスブレイクを行いました。 ■ その上で、お母さん・お父さん世代、高齢者世代、外国人、障がい者など様々な人物になりきってフィールドワーク（まち歩き）を行い、いつもは気が付かないまちの魅力や課題を見つけました。
【第2回】	6月17日（日） 13時30分～ 16時00分	■ 0歳～100歳まで、各年代における暮らしを想像し、住み続けたいまちの姿やワクワクする暮らしを実現するために必要なことについて、人生イベントマップを作成しながら、参加者全員で考えました。
【第3回】	7月15日（日） 13時30分～ 16時00分	■ 第1回のまちあるき、第2回の人生イベントマップを振り返りながら、3つの世代（未成年グループ、成年グループ、シニアグループ）に分かれて、それぞれについて「理想のまちの姿」とその理由を対話を通して取りまとめました。
【第4回】	8月24日（金） 13時30分～ 16時00分	■ 第3回で取りまとめた「理想のまちの姿」について、①その実現のために必要な取組は何か、各主体（市、市民、自己等）の役割は何かといった視点から、更なる深堀を行い、最終的に提言書を作成しました。 ■ 全4回を通して「気づいたこと」や、今後「理想のまち」にするために「自分自身がやりたいこと！」について参加者全員が「宣言」を行いました。

2. 第1回 テーマ：まちあるき

(1) 概要

①日時：平成30年5月27日（日） 午後1時から午後4時

②会場：武蔵野市役所 413会議室

③参加人数：中学生5名 高校生3名 大学生6名

④実施の目的：今後全4回を実施するにあたってアイスブレイクを行うとともに、様々な人の視点にたってまちあるきを行うことで、普段は気づかないような武蔵野市の魅力や課題を発見し、まちに対する理解を深める。

(2) 当日の様子

① ガイダンス

- 市より参加者に対して、事業の全体像と「長期計画」の概要について説明を行いました。

② ドーナツ型自己紹介

- 参加者のアイスブレイクを目的にドーナツ型自己紹介を行いました。輪になって座り、自己紹介を行う人に対して、その右隣の人がインタビュー形式で趣味や参加理由などを聞きだし、模造紙に書きだしました。共通の話題で盛り上がるなど、今後チームとして取り組んでいくことの機運が高まりました。

③ まちあるき

- 中高生が、3つのエリア（吉祥寺エリア、三鷹エリア、武蔵境エリア）に分かれてまちあるきを行いました。施設やスポットを巡るとともに、様々な人の話を聞き、学びを深めました。
- その際には、中高生の視点に加え、「子ども世代」「お父さん・お母さん世代」「おじいちゃん・おばあちゃん世代」「外国人」「障害のある人」など、様々な視点を持ってまちをあるきました。「違う人の視点で歩くことで普段のまちが違ってみえた」などの声が聞かれ、新たな魅力や解決すべき課題の発見につながりました。

④ まとめ・発表

- まちあるきを終えて、「気づいたこと」（ここが良かった！、ここはもう少し…等）をお互いに話し合いました。その上で、エリアごとに「こうだったらいいのに！」という改善案を検討しました。

<ドーナツ型自己紹介>



<なりきり
視点カード>

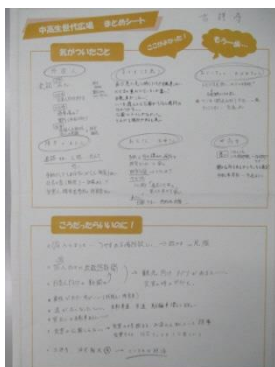
<まちあるきの様子①>



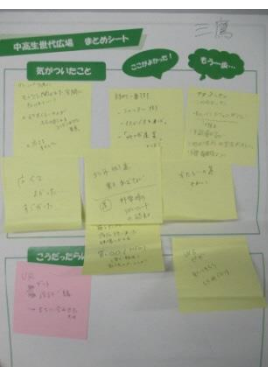
<まちあるきの様子②>



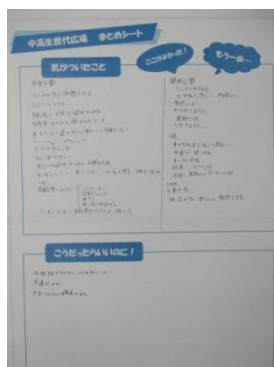
<吉祥寺班>



<三鷹班>



<武蔵境班>



3. 第2回 テーマ：人生イベントマップづくり

(1) 概要

①日時：平成30年6月17日（日） 午後1時30分から午後4時

②会場：武蔵野プレイス フォーラム

③参加人数：高校生4名 大学生3名

④実施の目的：中高生が自分たちの世代のことだけではなく、様々な世代における暮らしを想像し、住み続けたいまちの姿やワクワクする暮らしを実現するために必要なことについて考える。

(2) 当日の様子

① ガイダンス&振り返り

- 第1回のまちあるきの様子や気づいたことについて、全体で振り返りを行いました。

② 人生イベントマップの作成

- これまでの人生を参加者みんなで振り返るとともに、将来の自分のありたい姿を想像しながら、それぞれ起りうるライフイベントを書き出しました。
- その上で、ライフイベントごとにワクワクする暮らしの姿や心配事に対話を通して検討しました。

③ まとめ・発表

- 参加した中高生からは、「こんな先の未来を考えたのは初めて」「結婚に対する考え方も人によってこんなに違うのか！」などの声が聞かれました。
- 参加者みんなで、様々な価値観の人がワクワク、安心しながら住み続けられるまちの姿を考えることに挑戦して、人生イベントマップをつくりあげました。

<人生イベントマップ作成の様子①>



<人生イベントマップ作成の様子②>



<人生イベントマップ>



<まとめ・発表の様子>



4. 第3回 テーマ：みんなでつくる〇〇なまち、武蔵野市

(1) 概要

- ①日時：平成30年7月15日（日） 午後1時30分から午後4時
- ②会場：武蔵野市役所 412会議室
- ③参加人数：中学生6名 高校生5名 大学生6名
- ④実施の目的：第1回まちづくり、第2回の人生イベントマップ作成を通して検討した「ありたいまちの姿」について、3つの世代（未成年・成年・シニア）の視点から深堀をする。

(2) 当日の様子

① ガイダンス&振り返り

- 第1回・第2回の振り返りを行い、参加者みんなで検討状況について共有しました。

② 人生イベントマップの深堀

- 第2回は女子参加者のみであったため、男女に分かれて第2回の人生イベントマップの深堀を行いました。
- 女子班は、前回意見の少なかった30代以降について新たな気づきを付箋に追加して、人生イベントマップを完成させました。男性班は、新たに人生イベントマップを作成しました。その上で、男女それぞれの人生イベントマップを発表し、全体で共有を行いました。

③ 「理想のまち」を考えよう

- 3つの世代（未成年・成年・シニア）に分かれて、それぞれの世代にとつての「理想のまち」について検討しました。中高生はこれまでの学びや議論を踏まえて、まず個人ごとに付箋に「理想のまちの姿」と「その理由」を書き出し、グループ内で共有した上で、その世代にとつての「ありたいまちの姿」と「その理由」をグループとして取りまとめました。
- 話し合いでは、未成年グループで「自由に遊べる場所が多いまち」、成年グループで「子どもと暮らしやすいまち」「外国人と楽しみながらともに学べるまち」、シニアグループで「心身ともに健康なまち」「様々な世代やヒトと交流できるまち」などのキーワードが出されました。

④ まとめ・発表

- 各世代の「ありたいまちの姿」について、各グループで全体に対して発表を行い共有を行いました。

＜人生イベントマップ(深堀版)＞



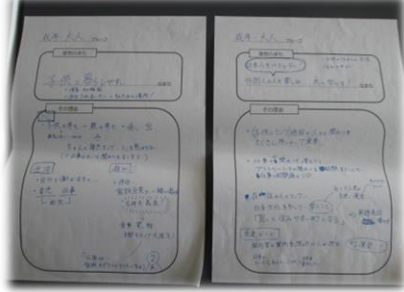
＜人生イベントマップ(深堀版)作成の様子＞



＜「理想のまち」の話し合いの様子＞



＜「理想のまち」のまとめ＞



＜発表の様子＞



5. 第4回 テーマ：まとめ・提言

(1) 概要

①日時：平成30年8月24日（金） 午後1時30分から午後4時

②会場：武蔵野市役所 812会議室

③参加人数：中学生5名 高校生2名 大学生4名

④実施の目的：過去3回の内容を踏まえて、「ありたいまちの姿」とその実現のために必要な取組について、提言書として取りまとめる。その上で、「ありたいまちの姿」を実現するために、自分自身ができることを当事者の視点を持って検討する。

(2) 当日の様子

① ガイダンス&振り返り

- 前回までの取組について、映像を使いながら振り返りを行いました。

② 提言書の取りまとめ

- 第3回で作成した「ありたいまちの姿」について、世代ごとに「コンセプト」「背景」「取組のポイント」「実現のための各主体の役割」といった視点を持って深堀を行いました。
- その上で、提言書（まとめシート）を取りまとめ、市に対して提言を行いました。《提言の詳細は6頁を参照》

③ キズキシートの作成

- 全4回で学んだ「気づき」に加えて、武蔵野市を理想のまちにするために自分自身がやりたいこと（「築いてみたいこと」）を、「宣言」としてキズキシートという形で取りまとめました。《宣言の詳細は7頁を参照》

④ まとめ・発表

- 最後に、中高生・大学生が参加者全体が輪をつくり、「キズキシート」に書いた宣言を一人一人発表するとともに、発表者の右隣の人が質問しながら、その内容を深堀していきました。
- 自分たちで考えた「ありたいまちの姿」を実現するために自分なりにできることをそれぞれが考え、今すぐできるアクションから将来的に挑戦してみたいことまで、様々な宣言が生まれました。まちの担い手としての当事者として頼もしい声が聞かれました。

＜提言書取りまとめの様子①＞



＜提言書取りまとめの様子②＞



＜キズキシートの発表の様子＞



＜提言書の発表の様子①＞

＜提言書の発表の様子②＞



6. 提 言 “こんなまちなら住み続けたい！ 私たちの理想のまち”

(1) 提言の内容

■ 第1回～第4回の議論を踏まえて、各グループで「提言書」（まとめシート）を下記の通り作成しました。

<発表時のコメント>

- コンセプトは「**中高生の居場所がある街**」。「何でもできる自由度の高い場所」「中高生だけの安心感がある場所」「気軽にいける場所」を増やしていきたい。
- 大人には味方として見守りをしてほしい。一方、中高生は最低限のルールをしっかり守ることが大切。また、**大人と中高生の壁を越えて、意見を出し合い共有できるように**していきたい。
- また、身近な存在として比較的年齢の近い**大学生が近く**にいて、**気軽に相談したり、交流できる環境**があると嬉しい。
- コンセプトは「**お互いに住みやすいまち**」。最近増えている外国人住民と日本人住民、ご近所同士など、お互いにとって住みよい街を目指していきたい。
- その際に**大切になるのが「交流」**。外国人住民には日本や武蔵野市のことをもっと知ってもらいたいし、そうすることでお互い気持ちよく暮らせるのではないかな。また、近所同士の交流が深まることで、災害時の助け合いにつながる。市では様々な交流イベントが開催されているが、そうした**イベントに積極的に参加していくことから始めたい**。
- 相手を知るためには、自分自身のこともよく知ることが大切。自分のこと、市のことをもっと知る努力をしていきたい。
- コンセプトは「**心身共に健康な町**」。バスを増やしたり、高齢者が安く使えるタクシーを増やすことで、**気軽に「外に出たい」と思える環境を整備することが大切**。
- また、歩いて疲れた時に休めるベンチを整備したり歩道と自転車道を分けたりすることで、**誰もが安心して外出できる環境を作りたい**。
- 市内には様々なイベントがあるが、引き込みりがちの高齢者には情報が伝わっていない。**シニアインフルエンサー**など、シニア向けに情報を発信する人ができるとよい。
- 最後に、シニア同士だけではなく、**若者など多世代のつながりも増やしていきたい**。

未成年
グループ

未成年グループ まとめシート

グループメンバー
坂本 奥野

コンセプト
中高生の居場所がある街

ポイント
自由度が高い
中高生だけ
"Flat"の気楽さ

役割
市: 中高生の見守り、味方になる
みんな: 大人の作ったルールを守る要望などを伝える
大人の関わり
その他: 何でも話せる人、大学生など勉強を教えてくれる人

成年
グループ

成年グループ まとめシート

グループメンバー
千田 菊池 平林

コンセプト
お互いに住みやすいまち

ポイント
外国人と日本人の交流
地域の人どうしの交流で通じて
お互いの事を知り 住みやすく!

役割
市: 交流の機会をつくる。
みんな: 武蔵野市についてよく知る
その他: コミセンを活用する

シニア
グループ

シニアグループ まとめシート

グループメンバー
斎藤 恵 藤原 健太郎

コンセプト
心身共に健康な町

ポイント
気楽に外に出れる交通
安心できるバリアフリー
何もなくてもつながりがある町

役割
市: 交通整備 イベント作り 情報発信
みんな: 情報と意見をつながり合う イベント参加
その他: 情報発信

7. KIZUKI&KIZUKU 私の〇〇宣言

(1) 宣言の内容

- 全4回を通して「気づいたこと」や、今後「理想のまち」を実現するために「自分自身がやってみたいこと！」について参加者全員が“宣言”を行いました。
- まちの「担い手」として、当事者意識を持った様々な意見・アイデアがでました。



< “宣言” 発表の様子 >



< クロージング >



「世代広場の活動で 気づいたこと」

- これまで武蔵野市に住んでいる中で不便は感じていなかったが、中高生広場を通して、解決しなければいけない様々な課題をみつけられた。
- 高齢者目線で街歩きをした。自分とは異なる視点を持ってまちを歩くことでたくさんの発見があった。
- 自分以外の視点でまちあるきをすることが面白かった。違う人の視点でみることは大切だと思った。
- 知らなかった市の取組がたくさんあって、市への関心が高まった。
- 人生マップについて、男女差が見えて面白かった。いろんな人生の選択があるのだと知れた。
- 「未成年グループ」を担当したが、子どもといっても、乳児期の子どもから中学生まで様々。「子ども」と一つにくるのではなくて、それぞれに焦点を当てて考えることが大切だと思った。
- グループワークで対話をしながら考えることで、自分では思いつかないようなアイデアや意見に触れられて面白かった。
- 中学入学時に引っ越してきたがそれまで市には関心がなかった。今回友達に誘われて参加したが、はじめて市のことについて関心を持てた。

「これからやってみたいこと、 築きたい未来」

- 武蔵野市がやっている様々な事業に積極的に参加することから始めたい。
- 市のことについてもっと深く知りたい。
- 環境に配慮した持続可能な社会の実現に貢献したい。
- 自分が高齢者になったら、シニアインフルエンサーになりたい。
- 今の自分にできることは少ないかもしれないけど、将来大人になってから自分に何ができるのか、今のうちから考えていきたい。
- 大人や小学生、高齢者など、様々な世代と交流をもっとして、お互いの理解を深めていきたい。
- まちの中にどのような課題があるのか気づける人になりたい。

參考資料

グループ (エリア)	項目	気がついたこと	こうだったらいいのに
三 鷹	ハウスグリーンパーク（老人）	・もう少し開かれた空間になってもいい？ ・65才位の人がふらっといられるコミセン的な要素 ・広さを生かした ・広くてよかった。すごかった	
	緑町一番街	・シャッター街 ・何かできれば ・「地域産業」とは？	
	中央コミセン	・普通のコミセン ・本のバリエーションが少ない→絵本 ・年齢層が高い ・他の場所の宣伝がほしい ・図書館と同じように	
	五日市街道	・若干あぶない	
	かたらいの道	・道 非常時の迂回ルートの認知	
	MIDOLINO_		・箱とインフラ、プロジェクターあった、映像つかえる ・貸し〇〇（アイドル）（安く中高生）勉強スペースとか
	WSピザ		知ってもらうしくみづくり
武蔵境		U R	・ゲート、設計一緒→まちに合わせたもの
	都立武蔵野中央公園	・ベンチが多く休憩できる ・スポーツできる ・見通し良く子供を遊ばせられる ・自転車がたくさん停められている ・車も少なく道もタイルで新しくて段差がない ・バーベキュー、ピクニック	
	0 1 2 3 はらっぱ	・はらっぱ楽しい ・安心して遊ばせられる。日曜もやってる。 ・わくわくルーム、角にスポンジがあって安全、棚も低め ・うれしい ・高齢者にやさしい（エレベーター、点字ブロック、手すり、車椅子も入れるトイレ） ・コミセンの近く、自転車がたくさんで怖い！！	・外国語がそんなにつかわれていない ・歩道がせまい ・点字ブロックに自転車がある
	関前公園	・ベンチで休める ・水があって涼しい、水遊び ・散歩によい ・ザリガニ釣り ・運動できる ・ケガするかも…	
	道	・車や自転車がなくて危ない ・歩道が狭いはね ・車椅子が危険 ・段差、つまづきやすい ・地図に英語などが書いてある	
	その他	・公園が多い ・緑、花が多い、安心して散歩できる	
	外国人	表記 外人向けの案内アプリ、フリーペーパー 【J R】小さい 【ベジ吉】日本人向けすぎる 【バス停】駐車場は？案内（外国人向け） 【災害】外国人を助ける、各人の意識 + 防災雑誌	
吉祥寺	障害のある人	・道路せまい、人多い、段差 怖い ・手助けしてくれるなにか（人・制度）ほしい ・信号の音（聴覚） - 効果ある…？ ・災害人、障害者専用の対策者ほしい	・（店入らずとも…）やすめる場所欲しい → 増やす or 民間 ・外国人向けの武蔵野新聞・日本人向けの新聞の武蔵野新聞 → 観光向けのアプリがあるといい。災害の時のガイドも。
	子ども（5歳）	・南口 急に走った時にバスや自転車こわい ・ベジ吉の黒のベビーカーが暑い ・自転車がこわい！ ・いつも遊んでいる公園が避難場所は分かりやすい ・公園にトイレがなかった ・騒げる場所があると良い	・看板が大きい方がいい（外国人・障害者） ・道が広くなったらいい。自転車道、歩道、駐輪車増えてほしい。 ・貸出しの自転車あるといい！！
	中高生	・南口 ごちゃごちゃ バス停移転 - 住宅街？でも… ・静かな所もあるからそっちを通る？ ・自転車専用…歩道はじに	・災害の公園しらない → 災害の時困る。お店の人知っていて誘導。災害テスト、防災フェスタ（公園とか）
	お父さん・お母さん	子どもと行き慣れた場所で防災設備→安心 ・防災公園→トイレは？！ ・ベジ吉 周り「道広くて平ら」並んで歩いて安心 ・あつい！ 日影少ない…熱性対策…	・吉祥寺、帰宅難民 多 → どうすれば解消
	おじいちゃん・おばあちゃん	・人もバスも多い→ぶつかるかも？ ・バス→交通手段としては良し ・ベンチ（駅近以外）少ない - 楽 ・テンミليون…交流、よし	

(2)第2回「人生イベントマップ」まとめ（模造紙）

時期	男子チーム	女子チーム
0歳～小学校入学前		歩ける ちょっとした事ですぐケガや病気になる はじめてのおつかい 自然とたくさんふれあえる
小学生	自由 勉強がイヤになる時期 とりあえず受験 人間関係の複雑化	ごはんおいしい！ 知らないことがたくさん分かる 感情が豊かになる 自転車に乗って遠出することができる はらっぱデビュー 習い事 受験勉強がづらい クレームが来る
中学生	とてもきつい 上手くなった 後輩が心配 スタメンになりたい	自撮りスポット 金欠 太る 受験（部活？）太り 部活の上下関係 人間関係で悩む 受験勉強がづらい 将来のロールモデルがない…？ 部活コミュニティ全て
高校生	ヤンキー ゲームざんまいになる	修学旅行 学割が多い J Kライフ 進路どうするか どんな学校に進むのか 何の塾に通う？ 受験システム オリンピック 選挙する
進学 大・短大・専門	海外でのスリ 自分でつかえるお金が増える 大変そう 休みが多い 成人式トーク 同窓会	メイク楽しい 他の人に流されず自分の好きなことができる 寝る時間が減る シェアハウス
19歳～20代	風当たり強そう だるい 金が稼げる 自由になる 自己管理が大変 酒が飲める	起業 海外に行きたい 仕事が変わる 動物と暮らす 初給料を貰う 仕事＝パソコン不安 通勤（中央ラッシュに乗りたくない。市内の方が…？→仕事と私生活混ざる…） ブラック企業 過労死 寝る時間が減る 免許 広くてキレイ、授乳・おむつ変え個室、こんな公園がいい！
30代	金欠 ラッシュのない生活	独身…全てを趣味に！ 夫婦…給料UPで趣味の幅広がる シェア子育てやりたい（独身だったら）すべてを趣味につぎこめる いろんな会社につとめたい 子供トラブル→受験・学校 サラリーマンって何してるのか 家族旅行を楽しむ 駐輪場ない「働く」場所と家の近さ
40代	給料が増えるかも モンペ怖い 子供がかわいい！はず いやされる家に帰るのが楽しくなる ローン 子供が受験でつらくなり自分にあたってくるかも	子の成長により自由な時間がふえる 相談する人が少なくなる セカンドライフどう過ごすか お金がかかる 共倒れ…？ 老々介護
50代	ラクになるお金 肝臓がんとか 親の介護で疲れる→親の死去＆子の独立のショック！→体調を崩したり 入院が必要なレベルだったら仕事ができなくなる	毛がなくなってくる 技術革新+カツラでハゲはなくなる 身体の衰え 気力が下がる
60代～70代	趣味などに時間をつかえるように ゲートボール 働かなくてよくなる	子育て終わって自由 旅行にも行ける 自由 園芸がじゅっくりできる 他世代シェアハウス 孫とデート 地域の子育ての手伝い 趣味に時間をたっぷりできる 地域猫の会のボランティア 人生の楽しみが減る？ TV見てたら一日終わる？ 孤独感や死の恐怖を感じる お金…どれくらいかかるんだろう、年金だけで生きていけるのかな
80代～90代	本当に何もなくてよくなる	

(3)第3回「みんなでつくる〇〇なまち、武蔵野市」まとめ（模造紙）

グループ	理想のまち	その理由
未成年	公園で自由に遊べるよう なまち	・野球が出来るような広さと、場所が欲しい。 ・芝生が欲しい（子ども） ・運動ができる場所 ・子供とボールで遊ぶ場所を分ける。 ・ネットが欲しい ・さわぎたい（6才） ・“ルール”厳しい！（6才）
	格安な遊ぶ施設がある まち	・中高生「だけ」・自由度高い・金かかるNG・“ふらっ”との気楽さ・“何でも”話せる人・大学生の勉強教えてくれる人・遊具ない公園多→遊具を増やす・心に不安大・発信する機会・中高生遊びの幅が広がる・プレイス最強・公園の広さ・見守り・大人が味方・“大人”のつくったルールを守る・『居場所』・大人に応える…？・発信する・大人とも関わる・自由にスポーツができる施設（ROUND1）・プレイス2つ目・三鷹エリアにも…・自習室（話せる…）・保育園・児童館←コミセンの子ども版・親同士が関わる施設・買い物中の保育施設・店などに子どもが遊べる施設をつくる。
成年・大人	子どもと暮らしやすい まち ・保育・幼稚園 ・休日ふれあいたい = そのための場所！	【心】子どもの幸せ = 病氣しない…とかとか = 親の幸せ = 癒し・宝 ⇒ ちゃんと接点もって、心を乾かさない（×仕事のせいで関わりをなくす×） 【生活】・自分も働かなきゃ・育児 仕事の両立 【遊び】・休日・家族全員で一緒に遊べる『吉祥寺最高！』 = 食事・買い物全部そろって大満足！「公園とか…家族でピクニックしたいなあ」（心の声）
	日本人だけじゃない！ 外国人の人も楽しみ…共に学べる！ まち ・子供のころからの交流 ・友だちガイド	・（子どもにとって）他国の人との関わりをたくさん持つのが重要 ・仕事での関わりも増えてく…プライベートでの関わりを経験することで…仕事での経験値もUP ・共に学べる・武蔵野のこと・外国・日本のこと ・在住の人にとって、日本文化を知って学ぶこと一市？大人たちが企画・運営—キャラクター、アニメ「互いに住みやすい町になる」⇒英語表記増やす。 【友達ガイド】旅行客の案内を現地の人が担当。町運営？日本のローカル知りたい⇔日本を案内したい
		【ラッシュ】解決したい・3階建て？・1.5両くらい増やす 【自転車道】全然ない・車、自転車、人を分けてほしい 自転車勢増える…？ = ラッシュ解消・狭山までつながっている。 【タバコ】歩きタバコ× すいから× 【運動】市営プール 運動ジム（会社運動部）
シニア	心身共に健康なまち	・情報・シニアインフルエンサー・1DAYレッスン・スマホ講座・移動式博物館・高架下に運動施設・高齢者自身が面白く発信する・イベント市報・つながり・可視化多世代・ベース・交通・バリアフリー・施設への送迎・バスの時間の間隔をせまくしたり、バスが通る（止まるところ）をもっと細かくする・駐輪場を増やす・お年寄りが安く使えるタクシー・階段の横に坂をつくる・ベンチをつくる・歩行者用道路→道幅を広くする・遊歩道・自転車用道路と区別する
	交流 なまち	・関わりがなくなってくる時期だから、普段一緒に楽しめる場が必要かなと思ったから。・地域活動がある。・同じ年くらいの人と集まる場所がある。 ・趣味としてのスポーツや活動などの催し物→老後のひまな時期にやることが増える。・歩きやすい道→散歩で楽、買い物・公共交通機関（ムーバスなどのコミュニティバス）→歩くのがつらくても乗っていける。 ・同世代の人と話せる場があれば生きがいになるから・病氣になっても生きる希望を失わないまち、福祉サービスが充実しているまち

グループ	コンセプト	背景	ポイント	役割	アイデア
未成年	中高生の居場所がある街	・中高生になると遊びの幅が広がる。 ・プレイスのB2のような場所が欲しい。 ・お金がかかるのはNG ・野外の公園は広い方が良い。	・自由度が高い。 ・中高生だけ ・“flat”の気楽さ	【市】中高生の見守り、味方になる 【みんな】大人の作ったルールを守る、要望などを伝える。大人との関わり 【その他】“何でも”話せる人、大学生など勉強を教えてくれる人	
成年	お互いに住みやすいまち	・会社に入ると外国人と関わりを持つ機会が増える→大学生くらいから経験 ・外国人に日本のルールを知ってもらうことで互いに気持ちよく生活できる。 ・ご近所同士で親睦深める→助け合い	・外国人と日本人の交流 ・地域の人同士の交流を通して、お互いの事を知り住みやすく！	【市】交流の機会をつくる 【みんな】武蔵野市についてよく知る 【その他】コミセンを活用する	・朝のラッシュ、帰りのラッシュをなくす。 ・自転車道 ・タバコ 歩きタバコ×、吸い殻×
シニア	心身共に健康な町	・どのバスに乗れば良いのかわかりづらい。 ・住宅街にバス停が少ない。 ・ベンチなど休む所が少ない。 ・スロープが少ない。 ・歩道の自転車が怖い、小さい段差が怖い。 ・情報はあっても知ってほしい人にとどかない。 ・個人の付き合いがせまい。 ・他世代とのつながりが少ない	・気楽に外に出れる交通 ・安心できるバリアフリー ・何もなくてもつながりがある町	【市】交通整備・イベント作り・情報発信 【みんな】情報を教え合う・声を掛け合う・イベントに参加 【その他】	NPO・大学生と話す プレイス…バンド教えてほしい

	世代広場の活動で気付いた事	これから築きたい「未来」
1	今まで街を歩いているとき、お年寄り目線で考えることはなかったので、考えてみておもしろかった。 また、発表のとき、いつもはつまりつまりだったのが、カンペをつくってもっていったら、すらすらしゃべれたので、これから発表するときはカンペをつくってもっていきたいと思った。	今回のワークショップで発表する能力が上がった？と思うので、これからもちゃんとカンペをつくっていきたい。 また自分もお年寄りになって外出するようにして、シニアインフルエンサーになりたいと思う。
2	町で外国人がいる所をあまり見た事がなかったが、意外とたくさんいて、その中には日本のルール、マナーが分かっていない人もいることが分かった。 自分たちの世代からの視点だけでなく、大人やシニアの人々がこの町をどのように見ているか考えることができた。 一つのことを掘り下げていくと他の問題にぶつかった。 このまちにはまだ解決しなければいけないことがたくさんあり、それを一つずつ解決することで武蔵野市が「理想のまち」に近づいていくのだと感じた。	市にイベントを開催してもらうだけでなく、自分一人でも動ける範囲でできることをする。 ・外国人と積極的に話す ・近所の人との関係を良くする（深める） 色々な人の目線になって物事を見ていきたい。
3	“子供”ってひとつにいけないなあと思った。 乳児期・園児期・就学児でも低学年～高学年、中高生とあり、それぞれに焦点を当てた方がいいと思えた。	環境に配慮した社会にしたい。
4	・成年にとつての理想のまちを考えた時に、外国人との交流について最初に思いついたが、地域の人達どうしの関わり合いも大事だと気付いた。 ・自分の視点からは考えるのが簡単だが、他の視点で考えると、今までしたことがないので、新しい発見や話し合ったことで自分が思いつかなかったような意見や考えが聞けた。	今は「まち」の中で自分ができることが限られているので、将来大人になった時に、考えを行動に移せるようにしたい。 今のうちに、将来、自分は何ができるのかということを考える時間を少しでも作ってきたい。
5	・武蔵野市のこと ・いろんな世代（ニーズ）はあるけど求めるものは“意外”と似てる。 ・女子は現実的	（・就活頑張る ・大学卒業する） 情報を知る → 知識を得る → みんなと分かり合える
6	・知らなかった市のとりくみがたくさんあった。 ・シニアと言ってもどんなシニアなのかによって求めるものが違うと感じた。 ・人生マップを作って、1つのイベントの選択によってどんどん違う人生になっていくと分かった。	・もっと色々な市のイベントを利用していきたいと思った。 ・他の世代の人との交流がほしいと思う。 ・町の中の自然を探したい。

8. 編集後記－大学生サポーターからみた世代広場－

(1)大学生からみた「ありたいまちの姿」

- 全4回を通して中高生とともに本事業をつくりあげた大学生アドバイザーにも、「世代広場の感想」と「大学生が考える“ありたいまちの姿”について聞きました。

「世代広場の感想」

- グループワークで対話をしながら考えることで、自分では思いつかないようなアイデアや意見に触れられて面白かった。
- 中高生の「生」の意見が聞けた。
- 中高生が回を重ねるごとにグループワークに慣れてきて、最終的に成果が形にまで持っていけたのがよかった。
- 中高生同士が議論することで「話し合いの場」がどんどんできあがっていった。
- 中高生と大学生が学びあえるのがよかった。
- 世代の視点にたって議論できたことはよかった。ただ、自分とは違う視点に立って考えることの難しさも感じた。
- 中学生が大学生にも思いつかない意見やアイデアを持っていて、もっと聞きたいと思った。
- 中高生の視点と大学生の視点、大人の視点など、それぞれの世代が普段の生活の中では共有できないものを共有できた。
- 難しい内容だったが、中高生のモチベーションが高く、テーマに対して真剣に向き合っていた。

「大学生にとっての “ありたいまちの姿”」

- 様々な世代や国籍・文化的背景、障害の有無など関係なく、誰にとっても不自由のない皆が共存できる街
- すべての世代にとって“温かいまち”
- 案外今の「まち」のかたちが好きだし、素敵。この魅力をどう広く知ってもらうかに注力したい。
- 子どもから高齢者まで様々な年代ごとに理想のまちを考えた時に、そのまちの姿や求められるニーズが異なっている。どの年代のニーズにも応えられるのが理想の街の姿だと思った。

**武蔵野市 中高生世代広場
(平成30年度第1クール)**

平成30年9月発行

**武蔵野市 総合政策部 企画調整課
武蔵野市 子ども家庭部 子ども政策課**

**東京都武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422-60-1801 (企画調整課)
0422-60-1851 (子ども政策課)**